

ソラコム、2026年度「ポーター賞」を受賞

IoTの民主化を掲げた独自の事業戦略が評価、
AIとIoTを軸にテクノロジーの民主化を推進

株式会社ソラコム(本社:東京都港区、代表取締役社長 CEO:玉川 憲)は、独自性のある優れた競争戦略を実践する日本の企業や事業を表彰する2026年度「ポーター賞」を受賞しました。



ポーター賞は、一橋ビジネススクール 国際企業戦略専攻が主催し、日本企業の競争力向上を目的として、競争戦略論の第一人者であるマイケル・E・ポーター氏(ハーバード大学経営大学院 教授)の名前を冠し、2001年に創設されました。本賞では、独自性の高い戦略や価値提供、戦略の一貫性、戦略を支えるイノベーション、収益性などの観点から審査が行われ、優れた企業や事業を表彰しています。

ソラコムは、2015年のサービス提供開始以来、「IoTの民主化」を掲げて事業を推進してきました。セルラー通信システムの中核であるモバイルコアをクラウド上のソフトウェアとして自社開発し、特定の業界や個別開発に依存しない汎用的な共通プラットフォームを実現しました。IoT通信、デバイス管理、セキュリティ、クラウド連携、AI活用といったIoTに必要な機能を柔軟に組み合わせるAI/IoT通信プラットフォームとして、日本はもとよりグローバルでご利用いただいています。グループ全体の契約回線数は1,000万を超えました。

今回の受賞は、当社がIoTの民主化実現のために構築してきた独自の事業戦略と、その競争優位性が評価されたものです。評価されたポイントは以下のとおりです。

- **小さく始め、グローバルに拡張できるサービス**:SIM1枚から従量課金で利用でき、少ない初期投資でIoTを導入できるほか、200以上の国と地域、550を超える通信キャリアのネットワークに対応し、お客様の事業成長や海外展開を支援していること
- **標準化とセルフサービスによるソラコムの実業モデル**:デバイス、通信、クラウドなどの機能を業種横断的に利用できる標準サービスとして提供し、お客様自身が自由に組み合わせられる仕組みにより、高い開発効率と低価格を実現していること
- **クラウドネイティブな通信基盤による競争優位性**:通信の中核システムをクラウド上のソフトウェアとして構築し、固定費を抑えて低価格を可能にするとともに、迅速なサービス開発を実現していること
- **独自技術とエコシステムによる模倣困難性**:100以上の特許に支えられた技術力と、ユーザーコミュニティに蓄積された活用事例とが相まって、他社には模倣しにくい強みとなっていること

ソラコムは、AIとIoTを軸に「テクノロジーの民主化」を掲げ、最新技術をより使いやすく提供することで、多くの活用事例と新たなイノベーションの創出を目指します。

ポーター賞公式サイト <https://www.porterprize.org/>

ソラコムについて

AI/IoT通信プラットフォームSORACOMは、世界200以上の国と地域でつながるIoT通信を軸に、IoTを活用するために必要となるアプリケーションやデバイスなどをワンストップで提供しています。製造、エネルギー、決済などの産業DXから、イノベーティブなスタートアップ、農業や防災など持続可能な地域社会を支える取り組みに至るまで、さまざまな業界・規模のお客様にご活用いただいています。

コーポレートサイト <https://soracom.com>

ソラコムのIRサイトでは、決算情報・IR資料など、株主・投資家様向け情報を掲載しています。

公式IRサイト・ニュースレター

・ IRサイト

<https://soracom.com/ja/ir>

・ IRニュースレター登録

<https://soracom.com/ja/ir/newsletter>

関連レポート・公式SNS

・ シェアードリサーチレポート

<https://sharedresearch.jp/ja/companies/147A>

・ ソラコムIR公式note

https://note.com/soracom_ir

・ソラコムIR公式X

<https://x.com/SORACOMIR>

本ニュースに関するお問い合わせ

株式会社ソラコム 広報 田渕

pr@soracom.jp